

中間保育園拠点区分 貸借対照表

令和5年3月31日現在

第三号第四様式
(第二十七条第四項関係)

法人名：宗教法人 梵正寺 中間保育園

(単位：円)

	資産の部			負債の部			
	当年度末	前年度末	増減		当年度末	前年度末	増減
流動資産	176,901,211	159,013,963	17,887,248	流動負債	127,472,884	133,440,343	△5,967,459
現金預金	15,951,702	1,712,541	14,239,161	短期運営資金借入金	109,900,000		109,900,000
事業未収金	8,173,592	3,230,455	4,943,137	事業未払金	4,358,065	4,452,712	△94,627
未収補助金	151,924,700	151,448,700	476,000	その他の未払金	10,000,000	101,420,000	△91,420,000
前払金	7,688	7,688		1. 1年以上の返済予定の長期借入金		24,200,000	△24,200,000
1. 1年以上の返済予定の長期借入金		2,600,000	△2,600,000	2. 1年以上の返済予定のリース料	1,583,712	1,583,712	
1. 1年以上の返済予定の長期借入金	341,549	14,019	327,530	未払費用		130,150	△130,150
				職員預り金	1,566,971	1,863,769	△296,798
				その他の流動負債	64,116		64,116
固定資産	623,740,996	530,491,691	93,249,304	固定負債		6,583,712	△6,583,712
基本財産	408,460,028	43,418,576	365,041,452	リース債務		1,583,712	△1,583,712
建物	408,460,028	43,418,576	365,041,452	その他の固定負債		5,000,000	△5,000,000
その他の固定資産	216,280,968	487,073,315	△271,792,346	負債の部合計	127,472,884	140,024,055	△12,551,171
建物	120,194,548		120,194,548	純 資 産 の 部			
構築物	23,135,100	27,601	23,107,499	基本金	106,985,852	106,985,852	
車両運搬具	326,745	622,350	△301,615	基本金	106,985,852	106,985,852	
器具及び備品	3,149,868	1,969,023	1,180,843	国庫補助金等特別積立金	328,823,995	180,853,000	147,770,995
遊戯仮積立		376,430,340	△376,430,340	国庫補助金等特別積立金	328,823,995	180,853,000	147,770,995
有形リース資産	1,553,712	3,167,424	△1,613,712	その他の積立金	82,330,000	104,369,000	△22,039,000
権利	2,609,378	3,024,015	△414,635	施設整備費積立金	10,000,000	48,000,000	△38,000,000
1. 国庫補助金等特別積立金	10,000,000	48,000,000	△38,000,000	人件費積立金	29,000,000	29,000,000	
人件費積立資産	29,000,000	29,000,000		修繕積立金	2,600,000	8,600,000	△6,000,000
債権積立資産	2,600,000	6,000,000	△3,400,000	備品等購入積立金	20,780,000	20,780,000	
備品等購入積立資産	20,780,000	20,780,000		次期繰越活動増減差額	175,170,475	167,262,367	7,908,108
長期前払費用	1,684,410	9,344	1,675,066	(うち当期活動増減差額)	△24,032,892	△13,159,776	△10,873,116
その他の固定資産	37,210	37,210					
				純資産の部合計	673,169,322	549,461,219	123,708,103
資産の部合計	800,642,206	689,505,274	111,136,932	負債及び純資産の部合計	800,642,206	689,505,274	111,136,932

※本様式は、勘定科目の大区分及び中区分を記載するが、必要のない中区分の勘定科目は省略することができる。
 ※勘定科目の中区分についてはやむを得ない場合、適当な科目を追加できるものとする。